



佐々木中学校だより

E-mail sasaki-jhs@inet-shibata.or.jp

電話 0254 (27) 2505

たった一言が人の心を温める

今年7月のサッカーワールドカップでは、日本人サポーターのマナーの素晴らしさが話題になりました。外国人記者から、W杯日本選手への「どうして、日本の観客は試合が終わった後に競技場のゴミを拾って、応援席をきれいにしてから帰るのですか」との質問に対して、選手は、「日本には「来た時よりも美しく」という言葉があります。その通りに行動したのです」と答えていました。

10月末のハロウィンでは、仮装をした人たちが東京・渋谷に大勢集まり、翌朝ゴミが路上に散らかってある様子が大きく報道されました。そんな報道に接すると、「来た時よりも美しく」という行為を日本人の美德と感じる人が少なくなっているのかと不安な気持ちになりました。

上に紹介した2つの例から、一つの行為を基準にして、その国民や社会が評価されることあることに気が付きます。

右上に掲げた「たった一言が人の心を傷つける たった一言が人の心を温める」という文は、使う場面や使い方の配慮を欠くことで、たった一言が相手の心を大きく傷つけ、発する言葉に配慮することが、相手の心を温める効果につながることもあることを教えてください。私たちは、右上の一文のもつ、この2つの側面をしっかりと胸に留めて生活していきたいものです。この文の中の、「一言」を「行為（行動）」に置きかえてみて、「ほんの小さな行為が人の心を傷つけることも、小さな行為が人の心を温めることもある」ことにも留意していくことが、学校生活だけでなく、社会生活の中でもますます求められていると思います。

『答えのない道德の問題 どう解く』（ポプラ社）には、次のような問いがあります。

「叩（たた）かれてもいけないのに、痛いつて感じるのはどうしてだろう」

みなさんは、この質問にどう答えますか。この問いに答えるヒントが、右上に掲げた文の中にあると思いませんか。『～どう解く』の中で、回答者は次のように答えています。

叩かれるよりも、ことばで言われる方がず～っと痛い気持ちをひきずることがあります。つまり、相手を傷つけるようなことばは、友だちや家族を始め、誰に対しても絶対使ってはいけないということです。

ことばは人間にとっていちばん便利で身近な道具です。優しいことばで誰かをはげますこともできる。でも、同時に、ことばという道具は、鋭いナイフで切りきざむよりざんこくに、人を傷つけることもできてしまう。

ラインやツイッターなどのインターネットの世界でも、ことばはみんなの周りを飛び交っている。インターネット上でも、現実世界と同じように、自分のことばには責任をもたなければならない。

そんなつもりはなかったとしても、人を傷つけてしまうことがあってはならない。



今月は「人権強調週間」が設けられています。学校生活を送る上でも大切な「互いの人権を尊重するという心構え」「思いやりをもった言葉づかい」を胸に刻む12月にしてください。

たった一言が
人の心を傷つける
たった一言が
人の心を温める

3年生がたから保育園で保育実習

11月12日（月）に、3年生がたから保育園を訪問し、保育実習を体験しました。訪問するまでは、自分たちが準備した遊びを園児の皆さんが楽しんでくれるかと心配していた3年生でしたが、保育園の先生方のご指導や園児の皆さんの協力のおかげで、とても充実した時間となりました。たから保育園のみなさん、ありがとうございました。



3年 MM

保育園訪問は、計画を立てたり準備をしたりしている時からとても楽しみでした。一番最初のゲームでは用意していた新聞が破れてしまったりして大変でした。ですが、ゲームを通して、園児をおんぶや抱っこして、私たち中学生と園児のみなさんとの仲が深まり、とても楽しかったです。園児の楽しそうな顔を見ることができて嬉しかったです。訪問の最後には、全員で「さんぽ」を歌いました。楽しい訪問でした。

3年 IY

園児のみなさんとクイズをしたり、おんぶをしたり、花いちもんめをしたり、楽しく遊ぶことができました。みんなと手をつないで遊びました。子どもたちが笑顔になっていて、私も自然に笑顔になりました。バスごっこをした時に、足の上に3人の子どもを乗せて、音楽と一緒に体を動かして遊びました。最後に、合唱曲「虹」を歌いました。園児のみなさんに虹を聴かせることができよかったです。園児のみなさんの歌がかわいくて、とても上手でした。帰る時は少しさみしかったです、楽しい思い出ができました。

3年 YA

園児の皆さんとゲームをしたり、歌を歌ったりして、楽しませることができたのでよかったです。歌と一緒に歌うときには、園児たちと一緒にみんなで手をつないで、輪になり、楽しく歌えました。

3年 SM

私は自分が小さな子どもが苦手だと思っていましたが、今回の保育園訪問で子どもが好きになりました。「島流し」というゲームを進める時に、すこし戸惑ってしまいましたが、園児たちが楽しくクイズに参加してくれたので、とてもいい思い出になりました。最後に「さんぽ」を歌いました。園児のみなさんがとても楽しそうに歌っていたので、私まで楽しくなりました。



3年 TR

保育園訪問で、「保育園の先生はやっぱりすごいな」と思いました。たくさん子どもをまとめていました。できるだけ簡単な言葉を使って子どもを静かにさせたり、話を聞かせたりしていました。保育園訪問に向けて今まで一生懸命に準備してきたことを子どもたちが楽しんでくれて、私たちもとても嬉しかったです。

3年 IT

保育園訪問の前に、私たちの班では「島流し」というゲームを準備しました。準備の段階から、園児がゲームをしている最中にケガをしないように、道具を作るときにも安全面に気を付けました。園児のみなさんにも分かりやすいようなクイズを工夫することができて良かったです。実際にゲームを始めてみると、園児をいくつかのチームに分けるところからたくさん時間がかかってしまいました。もう少しスムーズにゲームを始められるように工夫することができたらよかったです。

3年 NA

小さい子の相手をするに少し苦手意識がありましたが、だから保育園を訪問し園児に会った瞬間にそんな心配は消えてしまいました。ゲームを進める時には、園児のみなさんから静かにしてもらうことがとても大変でした。ですが、園児を抱っこしたり、たくさんお話しをしたりすることができて嬉しかったです。園児のみなさんが、私の名前を覚えて、呼んでくれたときがとても嬉しかったです。2時間の保育園訪問は、思っていた以上に大変で疲れてしまいましたが、今回の保育園訪問で、小さい子を今まで以上に好きになることができました。



3年 SR

僕は幼児の相手をするのが苦手です。幼児は無邪気で、想定外の行動をすることが多いと思いますが、その幼児たちと毎日向き合い、お仕事をされている保育園の先生方はすごいなと思います。はじめは、園児とどんなふうに接していいかわからずに苦手意識がありましたが、触れ合いの時間に園児のみなさんと一緒に遊んだ「はないちもんめ」は楽しかったです。



中学2年生が3日間の職場体験を行いました

9月25日（火）～27日（木）の3日間、2年生は市内6事業所へ職場体験に出かけました。3日間の職場体験を受け入れていただいた事業所のみなさんの協力のおかげで、充実した学習活動となりました。職場体験を通じて、社会に向けた視野が広がり、気付きや発見があり、自分のそれまでの考えや行動が変化し、成長できた点がたくさんあったようです。とても貴重な体験となった3日間の職場体験でした。

大進電業 様での体験



2年 NT パソコンでの作業のやり方を教えてもらいながら、作業を進めましたが、間違えてしまい、あわててしまいました。事業所の方には「説明を聞いて分かったつもりにならないで、理解できるまで最後まで尋ねたり、聞いたほうがいい」との助言をいただきました。僕は時々、分かったつもりになって、間違えてしまうので、この助言を生かしていきたいです。

イクネス新発田 様での体験



2年 WR 職場体験の期間に、職場のみなさんが利用者から心地よい場所だと思ってもらえるように、細かな配慮に努め、書棚の本を名簿順に揃えたりしている姿に接して、私も今までよりも細かな部分に気付ける人になりたいと思いました。「利用者の気持ちになって考えること」という言葉もいただきました。常に思いやりの心をもつことが大切だと思いました。

佐々木耕起組合 様での体験



2年 YH 職場体験でお米の収穫や野菜の苗植えの作業に取り組みました。お米や野菜などは全てお客様の手元に届けられる物なので、職場体験の学習活動という構えではなく、お米や野菜への愛情をこめて働かなければと考えて取り組みました。これからも、自分に任された仕事に責任をもって働かなければならないと思いました。

たから保育園 様での体験



2年 KR 幼児と遊ぶという仕事でも、事前にいろいろな準備が必要で、とても体力の要る仕事だと分かりました。また園児は、先生の言葉をすぐに真似しようとするので、一つ一つの言葉の言い方をよく考えて使っている姿がありました。園児のみなさんのお手本となる言葉遣いができるように気を付けたいです。

コンフィ陽だまり苑 様での体験



2年 MM 高齢の方の話し相手になったり、食事や洗髪の手伝いをさせていただきました。みなさんに元気を与えられるような話ができればと思い仕事に臨みましたが、私の方が心のモヤモヤが洗い流されて、きれいになったような印象をもちました。洗髪した方の髪を乾燥させるためのドライヤーを手伝いましたが、ドライヤーの風が顔にかからないように気を付けるなど、高齢の方への接し方を学ぶことができました。

ヨリネス新発田 様での体験



2年 SH 職場体験3日目のワークショップでは「どんなイベントに行ってみたいか」のアイデアを出し合いました。最初は、自分の考えを発表するのが恥ずかしくてためらったりしましたが、勇気を出して自分のアイデアを書き出すと、周囲から「その考え、いいね」とたくさん言ってもらえました。自分の考えを積極的に発言しないと、ワークショップが盛り上がらないと気が付きました。恥ずかしがらずに、自分の意見をたくさん出すことが大切なんだと分かりました。

職場体験後には、2年生全員が訪問先の事業所にお礼状を送りました。「たから保育園」に出かけた生徒のお礼状の一部を紹介します。

私がこの3日間で特に意識したことは、「子どもたち一人一人への対応」です。保育園の先生方にお話をお聞きし、子どもたち一人一人の性格をよく理解した対応を心がけました。一人一人違う対応をすることは難しかったですが、子どもたちの笑顔が見られたときはとても嬉しかったです。その人にあった対応をこれから先も心がけていきたいです。三日間、本当にお世話になりました。

たから保育園の皆さま

2年 T



職場体験での3日間を経て、「職場体験 ミッション提案発表会」を、イクネスしばたで開催しました。

日時 11月16日(金)
13時40分～14時40分頃
会場 「イクネスしばた」
1階多目的広場

内容 職場体験で「ミッション」を与えられた2年生が、体験を経てミッションの解決策を考えました。2年生が中学生目線で考えたその解決策を発表しました。(詳細は次のページへ)



イクネスしばたで「ミッション課題解決策」の提案

11月16日（金）に、2年生が、「イクネス新発田」（新発田中央図書館）1階の多目的ホールで学習発表会を行いました。9月末の3日間、6つの事業所に分かれて、職場体験を行った2年生が、各事業所から提示されたミッション(Mission)に中学生らしいアイデアと工夫で「課題解決策」を考え、イクネスで提案発表しました。当日は、職場体験でお世話いただいた事業所や関係者のみなさん、新発田市内9中学校の総合学習担当の先生方、保護者の方々そして中央図書館の職員など多くの方が、2年生の提案発表を聞きに集まってくれました。

2年生による提案発表には、クイズあり、体操あり、寸劇ありと、聞く人に楽しんで聴いてもらおうという工夫が溢れ、提案発表が終わる度に、会場から大きな拍手が湧いていました。

「たから保育園」班 Mission「5歳児が楽しめる鬼ごっこやゲームを考えよう」

職場体験に行き、園児の特徴として「好奇心が旺盛」で「活発」なことに気が付きました。また、鬼ごっこ遊びを始めると、園児同士がぶつかったり、同じ向きに逃げたり、鬼が誰か分かるという課題も見つかりました。そこで、課題を解決できて、園児がもっと楽しめる遊びを工夫しました。「バナナ鬼」や「こおり鬼」といった新しい遊びを考案し、園児にルールを説明してから、遊びを始めました。

すると、新たな課題として、おとなしい子とにぎやかな子では好きな遊びが異なるということが分かりました。おとなしい子は「仲間集め」のようなゲームが好きで、にぎやかな子は「鬼ごっこ」が好きだと分かりました。そこで、私たちはミッションの解決策として、次の考えを提案します。

園児が楽しめるように（体動かす系・あまり動かさない系）の遊びを平等にすることで、遊びがもっと楽しくなる

「仲間集め」ゲームでは、「宝探し」のような遊び方が難しい内容を工夫し、「鬼ごっこ」では、園児が飽きないように、短い時間でいろいろな遊びが出来るように工夫しました。

「佐々木耕起組合」班 Mission「お米や餅をもっと食べたくなるようなリーフレット作り」

食事の時にお米を食べる割合が減っていると言われます。パンや麺類を食べる人が増えてきた影響です。僕たちは、いろんな人にもっとお米や餅を食べてほしいというミッションを受けて、「お米」に関するリーフレットを作りました。リーフレットを通じて、お米にしかない良さやお米を食べることによる効果を広く宣伝していきます。

今の若者のなかには「お米は太りやすい」と誤解している人もいて、お米離れが進んでいるようです。ですが、野菜や魚、海藻類や大豆などの食材と組み合わせるお米を食べることは、栄養バランスからみてとても健康的であることを、もっとたくさんの人に伝えていきたいです。

世界のセレブたちも、健康維持に効果があるということから、日本のお米を食べています。私たち日本人こそが、日本のおいしい食材である「お米」をもっと食べましょう。

お米を食べることが「頭がよく働く」ことにもつながることはお米の大切なポイントです。お米に含まれるでんぷんがブドウ糖に変化し、脳の働きを活性化します。



「ヨリネスしばた」班 Mission「新発田の町なかに人を呼ぶための方法を考えよう！」

小・中・高校生がもっと新発田の町なかに遊びに集まるにはどうしたらいいかを考えました。新発田市内には老舗の美味しいお菓子屋がたくさんあることに着目しました。「新発田のブランドであるお菓子を広める」ことから、若者の新発田離れに歯止めをかけるというアイデアを提案します。新発田市内には、饅頭（まんじゅう）、羊羹（ようかん）、最中（もなか）など美味しいお菓子がたくさんあります。

そこで、「新発田の美味しいお菓子の引き替え券」を西新発田駅付近の大型ショッピングセンター内で無料配付します。

無料券をもらった人が、新発田のブランドお菓子と引き替える場所はヨリネスしばたとします。大勢のお客さんがお菓子を引き替えに来た時に、そこに新発田市内の他のお菓子も並べておくことで、興味をもってもらえて、買ってもらえるチャンスが増えると考えます。イクネス新発田の催しと関連付けて、ヨリネスからイクネスへつながる通りで駄菓子を売る広場を設けることで、お小遣いをもったこどもたちが集まってくれると思います。

「イクネスしばた」班 Mission「イクネス新発田に中学生の利用が増える案を考える」

新発田駅前の複合施設イクネスには大きな図書館もあり、高校生が毎日学習する場所として利用しています。ですが、現状では、中学生の利用は高校生に比べて少ないようです。もっとたくさんの中学生にイクネスに足を運んでもらえるように、バーチャルリアリティ（VR）体験からその関連図書に興味をもってもらおうと考えました。

例えば、動物に関心のある中学生が、イクネス2階のこどもセンターで①VR体験をして、次に2階多目的室で映画②「ジュラシックパーク」を見て、上映作品と関わりのある本（例「シートン動物記」）を3階多目的室に置き、いつでも③閲覧できるようにします。この①から③の流れに従うことで、VRや映画には興味があっても読書にあまり興味をもたない中学生も、読書好きになるきっかけづくりにつながると考え、企画しました。

イクネスしばたもヨリネスしばたも最新のとても過ごしやすい施設です。2つの施設とその2つを繋ぐルートの「点」と「線」を工夫することでまちの活性化につながるはずです。

ヨリネスしばたとイクネスしばたでのイベントが刺激し合うことで、大勢の若者が新発田の町なかに集まり、駅前から市役所にかけての商店街によい影響が広がります。



大進電業」班 Mission「生活を守る電気工事業をクラスメイトや就活中の学生に伝えよう」

職場体験後の11月始め、全校生徒を対象にアンケート調査を実施しました。質問は「電気工事業を知っていますか」です。「知らない」と答えた割合は47%。知名度の低さを感じました。アンケートの後で、僕たちが「電気工事業」がどのような仕事であるかを説明したところ、「電気工事業に興味を感じた」との回答が58%となりました。説明を聞いた直後には、割合の多い方から順に、「勤務時間」「仕事のやりがい」「給料」に興味を抱き始めたことも分かりました。

電気工事業だけに限らず、「ものづくり」という大切な仕事のやりがいが、若者に知られていない現状があることに気が付きました。

電気工事業の知名度を上げるために、地域の方や高校生、大学生に電気工事業の仕事内容や情報を詰め込んだプレゼン資料を作成します。

3K（きつい、きたない、給料が安い）と言われた時代もありますが、今の電気工事業は「ゼロK」だということを広く知って欲しいです。

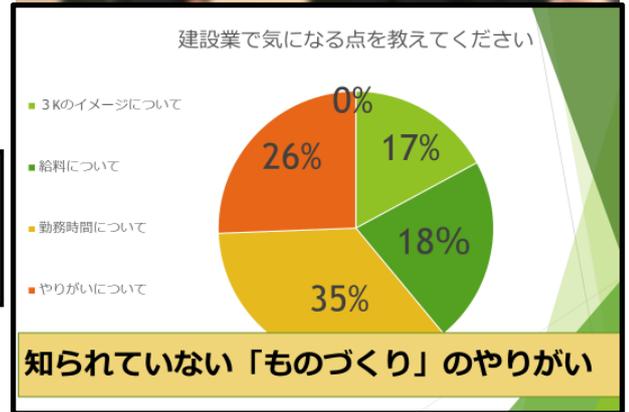
「陽だまり苑」班 Mission「高齢者の楽しみを発見し、皆でできるレクを行ってみよう」

多くの高齢者が過ごすコンフィ陽だまり苑。身体を動かしたり、周りの人とのコミュニケーションをとったりすることも大切な日課です。高齢者が楽しめるレクリエーションにも限りがあり、新しい楽しみアイデアづくりが中学生に任せられました。

3日間の職場体験で、生徒は高齢者との話し相手になり、踊り（YMCA）を見てもらいました。高齢者の方からは踊りに合わせた手拍子を送ってもらいました。

陽だまり苑が今よりもさらに楽しく・明るい施設になるように、①手足を使った頭の体操、②絵描き歌、③スタッフによる演し物を提案します。

①は、手足を動かすだけで老化防止に役立ちます。②は、なるべく簡単な絵や季節ごとの絵を課題にすると、絵の得意・不得意の別なく楽しめます。③は、例えばダンスであれば、高齢の方も知っている歌、簡単なリズム、簡単な動作であれば、みんなが親しむことができます。手や足が不自由の人でも「見ているだけで楽しめる」演し物が最善です。



平成30年度全国学力・学習状況調査結果について

新発田市ホームページ上に、10月4日から今年度の全国学力・学習状況調査結果（以下、「全国学テ」）が公開されました。市ホームページ上では、全国と新発田市内小中学校との結果の比較が公開され（下表参照）、また、結果の分析内容も読むことができます。

	小学校					中学校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
新発田市	73.0	58.0	67.0	52.0	59.0	77.0	63.0	69.0	48.0	67.0
新潟県	72.0	57.0	66.0	51.0	60.0	77.0	62.0	67.0	47.0	66.0
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
県平均との差	1.0	1.0	1.0	1.0	-1.0	0.0	1.0	2.0	1.0	1.0
全国平均との差	2.3	3.3	3.5	0.5	-1.3	0.9	1.8	2.9	1.1	0.9

全国学テは毎年度中学3年生を対象に行われています。今年度は、「国語A B」と「数学A B」の他に、3年に一度実施される「理科」が加わり、3教科5種類の調査が行われました。（A問題は、「知識」を問う問題。B問題は、「活用」を問う問題です。）新発田市内の中学校の平均正答率は、上の表の太枠で表した通りです。新発田市全体の結果を見ると、全国の平均正答率と比べて、全ての調査で全国平均正答率を上回ることができています。

今年度の佐々木中学校の結果を、上の表に基づいて説明すると、次のとおりです。

佐々木中学校「国語A」	全国正答率をたいへん上回った。
佐々木中学校「国語B」	全国正答率をたいへん上回った。
佐々木中学校「数学A」	全国正答率を上回った。
佐々木中学校「数学B」	全国正答率を上回った。
佐々木中学校「理科」	全国正答率をたいへん上回った。

5種類全てで、佐々木中学校の正答率は、全国・新潟県・新発田市の正答率を上回ることができました。（来年度2019年度には「理科」ではなく、「英語」が初めて加わり、「国語」「数学」「英語」の3教科の検査が行われます。）

また、新潟県教育委員会発行の「学力向上サポートたより」（H30.9）では、「数学や理科の勉強は好きですか」との問いへの肯定回答の割合が示されています。

この質問項目について、佐々木中学校の回答の値と全国平均値を比較してみると、数学でも理科でも佐々木中学校の肯定的回答（「勉強は好き」）の割合が全国値を大きく上回っていました。（今年度は、「国語」についての「～好きですか」の調査は行われませんでした。）

		中学校	
		数学	理科
教科の勉強は好きですか	新潟県	55.6	61.7
	全国	53.9	62.9
	差	1.7	-1.2

また、「国語B」で出題された「話の構成を工夫し、相手の反応を踏まえながら話すことができるか」を問う問題では、【新潟県正答率59.3、全国正答率54.6】に対して、佐々木中の正答率は県や全国の正答率を大きく上回るよい結果でした。そして、「数学B」で出題された「座標平面上における連立二元一次方程式の解について理解しているか」を問う問題でも、佐々木中学校の正答率は【新潟県正答率40.8 全国正答率42.3】を上回りました。

次年度（現在の中学2年生対象）には、初めて「英語」の学力検査が導入されます。

一年生が「小煮物づくり」を楽しみました

11月27日（火）に、1年生が「小煮物」づくりに取り組みました。小煮物は新発田市の代表的な郷土料理です。新発田市の「食育」（食とみどりの新発田っ子プラン）が目指す子供像としても、「中学3年生で一人で小煮物（のっぺ）のある夕食一食分を作れる」が掲げられています。今回の小煮物づくりでは、地域の食生活改善推進委員（略称「食推」）のみなさんを講師にお迎えし、お手伝いをいただきながら、5時間目と6時間目の2時間の授業をかけて、生徒たちが自分たちで調理し、出来た小煮物を味わいました。体験後に生徒たちから感想を聞くと、「初めて作ってみました」「今度家族に作ってあげたい」などいろいろな声がありました。毎年、佐々木中学校で実施する「小煮物づくり」で、講師を務めていただいている食推の皆さんからは、1年生の生徒に優しく声をかけていただき、準備から後片付けまで細かなご指導をいただきました。本当にありがとうございました。

（*「食とみどりの新発田っ子通信」（第32号）では、共同調理場で小煮物が作られるまでの様子や調理員さんのお仕事が紹介されています。新発田市ホームページから閲覧できます。）

1年 E 僕は小煮物づくりに初めて取り組みました。佐々木地域の食推の方々が大勢来てくれて、調理の仕方を僕たちに教えてくれました。小煮物づくりで難しかったことは里いもの皮をむくことです。ぬるぬるしていたので大変でした。小煮物のつくり方の手順を優しく教えていただいた地域の方に感謝したいです。

1年 K 小煮物は食べたことはありましたが、作ったことはなかったので、とても良い体験でした。食推のみなさんから具材の切り方なども教えてもらいました。みんなで楽しく作れました。最後に、みんなそろって食べた小煮物はおいしかったです。

1年 T 私にとって初めての小煮物づくりでしたが、思っていたよりも簡単に作ることができました。今度、家族に作ってあげられたらいいなと思いました。教えていただいた佐々木地域の食推の方とも、小煮物づくりを通して仲良くなれました。

1年 Y 初めての小煮物づくりで、今までに切ったことのない野菜を切ったりしました。小煮物はどんな味がするのか分かりませんでした。食べてみたらおいしかったです。今度、家でも作って、みんなで食べてみたいです。

1年 H 私は、今回初めて小煮物を作りました。家で小煮物を食べたことはありましたが、どうやって作っているのかが分からなかったの、ちゃんとできるか心配でした。今回の小煮物づくりでは、佐々木地域の食推のみなさんに教えていただきながら、ちゃんと作ることができたので良かったです。



1年 G 私は初めて小煮物を作りました。どのくらいのかたさになったら、次の具材を入れるかなどを教えてもらいました。今回自分たちで作った小煮物は、学校の給食や家で食べる小煮物とは全然違う味がしました。また機会があったら作ってみたいです。

1年 H 僕は、今回初めて小煮物を作りました。佐々木地域の食推のみなさんから分かりやすく教えていただきました。食推のみなさんが面白い話を混ぜながら教えてくれたので、小煮物づくりが楽しかったです。最後の試食の時に、僕は少し残してしまいましたが、自分たちで作った小煮物はおいしかったです。



1年 S 僕は、小煮物を自分で作ったことがなかったので、今回初めて小煮物を作りました。作るときに難しいと思ったことは、鶏肉を切るときです。とても固くて、切りにくかったです。汁は少なかったですが、少ない分、味が具に染みているので美味しかったです。



1年 T 初めて小煮物づくりをしてみて、最初は作り方がよく分からなかったけれど、佐々木地域の食推の人たちがすぐ近くで教えてくれたので、小煮物を上手く作ることができました。おいしく作ることができたので良かったです。良い経験になりました。またクラスみんなで小煮物を作りたいです。



1年 S 僕たちの班は、快斗くんと僕の2人で一番人数が少なかったのですが、小煮物づくりの作業をスムーズに進められて、食推の皆さんにも褒められたのですごく嬉しかったです。

1年 Y 佐々木地域の食推の方々と協力して小煮物を作り、楽しかったです。ぎんなんや貝柱など、あまり使ったことや食べたことのない食材を使い、班の仲間や食推の方に教えてもらいながら作りました。小煮物はとても美味しくできました。佐々木地域の皆さんとも交流ができて良かったです。



1年 T 小煮物づくりでは、最初の短冊切りなどの切り方がぜんぜん分からなかったけれど、講師の食推の方が優しく教えてくれたので、なんとか作ることができました。小煮物はとてもおいしかったので、また作ってみたいです。

1年 N 小煮物を初めて作って見ましたが、自分が想像していたよりも小煮物づくりは難しかったです。僕の班は2人でしたが、最後までテキパキとできて良かったです。家で小煮物を作る時は、今回食推のみなさんに教えてもらったことを思い出して、おいしく作りたいです。

1年 Y 初めて小煮物を作りました。最初は上手く作れるか分かりませんでしたが、上手く作ることができてよかったです。またみんなで作りたいです。

1年 N 小煮物を初めて作りました。あまり上手に作れませんが、初めて作った小煮物だったので、美味しかったです。次はもっと美味しい小煮物を作りたいです。

1年 M 小煮物づくりでは、具材の切り方がいろいろあって、とても難しかったです。ですが、おいしく作ることができたのでよかったです。

地震想定の避難訓練では、「起震車」で震度7を体感しました

11月19日（月）の4時間目に、避難訓練を行いました。今回は「地震」を想定した訓練でもあり、新潟県防災局防災企画課の協力を得ながら、起震車を使って中越地震発生時の「震度7」を体験しました。生徒全員が起震車に乗り込み、実際に震度7を体験しました。揺れが始まると同時に体を強ばらせて耐える生徒を脇から見ていても、地震の怖さとその大きさが伝わってくるほどでした。

起震車に乗って体験した地震の怖さからも、日頃から自然災害への備えを進めておくことの大切さを改めて感じる事ができた避難訓練となりました。

3年 SC 起震車に乗って、こんなに強い地震を初めて体験して、とてもびっくりしました。震度7の揺れでは、イスに座っていても、体がはねて、床に足を付けていられない状態になり、恐ろしかったです。

3年 SK 実際に震度7を体験して、立ってられないほどの揺れで驚きました。起震車体験を踏まえて、実際の地震が発生したときには、あせらずに避難できるように心掛けたいと思いました。

2年 KR 起震車に乗って実際に震度7の揺れを体験してみて、想定した以上に揺れが大きくて怖かったです。今回教えていただいた地震発生時の基本的動作の3つ（落ち着いて自分の命を守る、あわてないで火の元を消す、ドアや窓を開放する）をしっかり覚えていきたいです。

2年 YS 起震車体験では、「これから揺れが来る」と分かっているから怖くはなかったのですが、突然に震度7が来たら、何もできないと思いました。日頃から、防災学習にしっかりと取り組んで行きたいです。

1年 HS 僕は7年前の東日本大震災の時のことを忘れていたことに気が付きました。起震車体験では、震度7では、こんなに揺れるんだと再確認しました。地震はいつ起きるか分からないので、自分の命を大切にしていきたいです。

1年 SK 起震車の奥に設置されているモニターの表示を見ていると、まず初期微動が始まって、次に大きな主要動が始まったのが分かりました。僕は、震度が表示されるモニターの近くにいたので、震度6と震度7の揺れの違いがよく分かりました。

1年 YR 僕は起震車体験をしてみて、あんなにグラグラと大きく揺れるなんて思ってもいませんでした。今回体験したような地震の大きな揺れはもう二度と体験したくありません。

